

100歳大学

一般社団法人 健康・福祉総研



100歳大学

ねらい

- ・ 老いについて基礎(基本)を学ぶ
- ・ 同年代の仲間をつくり、地域で生きる
- ・ 人生に目標を持ち、行政とコラボする
それを行政が褒め、いい習慣をつくる
(国保の減免をめざす)

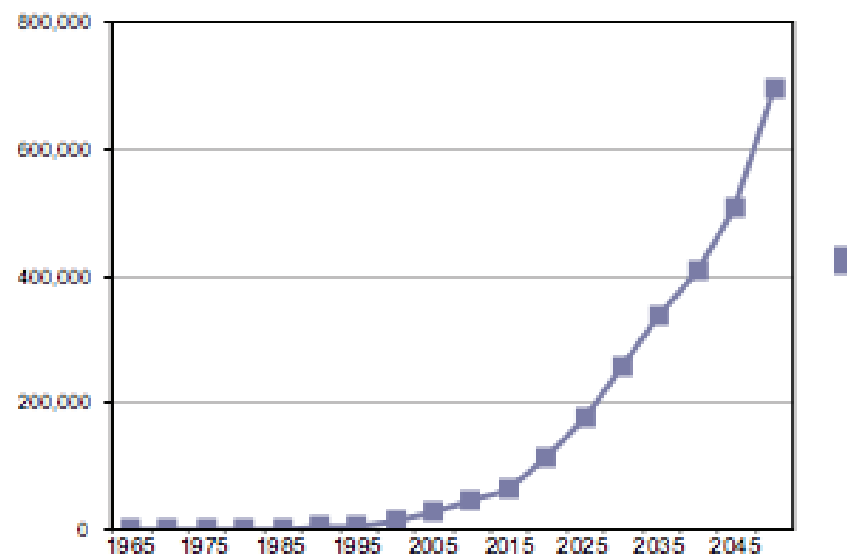


「人生100歳時代」の到来

100歳人口の急増

1965年	198人
1975年	548人
1985年	1,740人
1995年	6,378人
2005年	25,554人
2015年	61,586人
2055年	657,350人（約9割が女性）

約8割が認知症
約半分がねたきり





人生長寿化の模式図



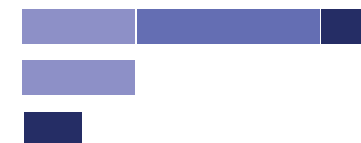
人生60年



人生100年



(凡例) 人生
成長期
老後期



人生100年HV

人生 = 人生60年時代の一生(60年) + 67%(40年) = 100歳

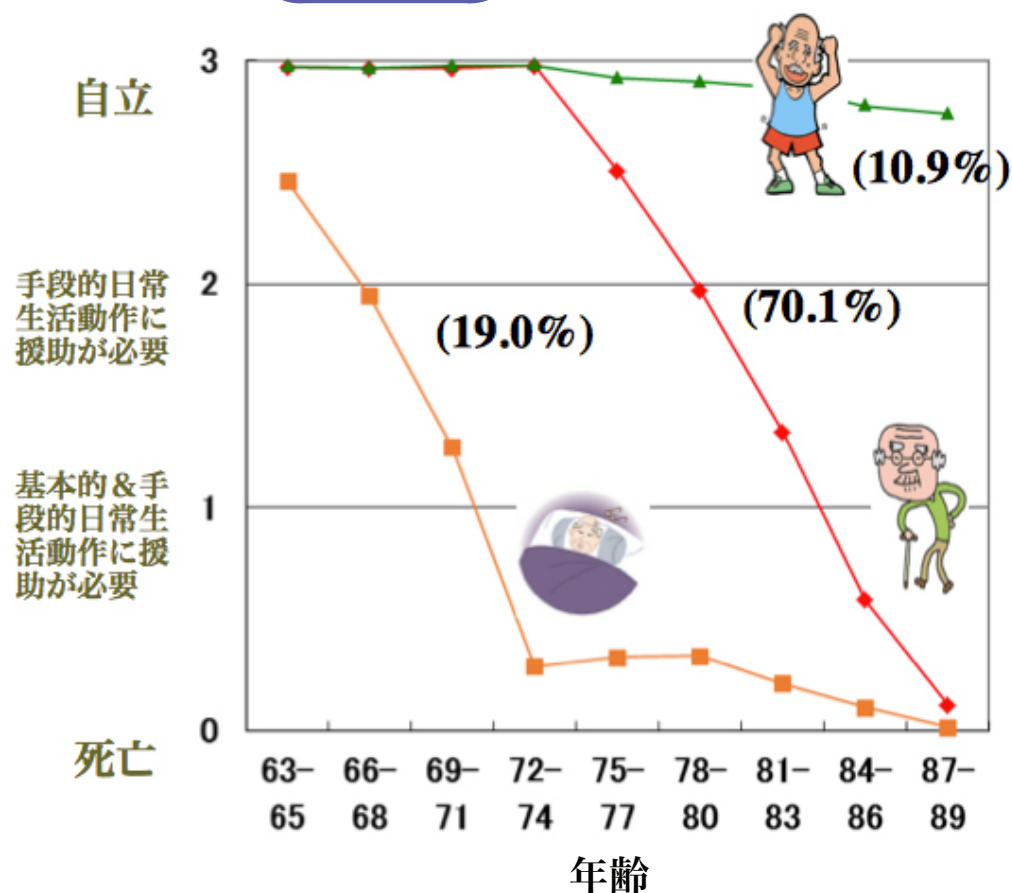
老後の期間 = 人生60年時代の老後(10年) × 3倍 = 30年(人生一幕の追加)



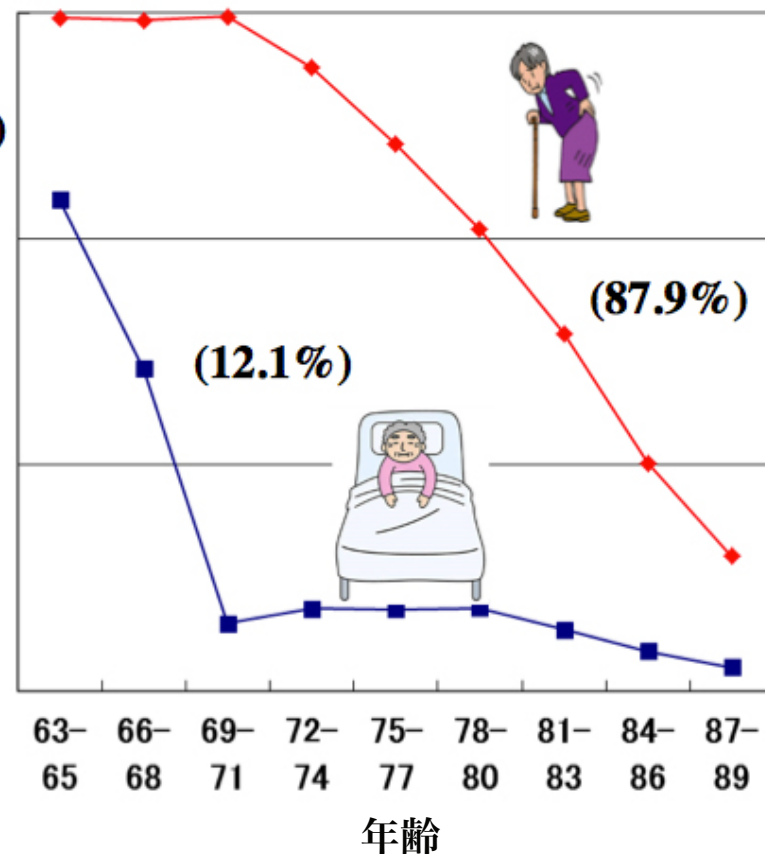
高齢者の自立度と男女のパターン

~全国高齢者20年の追跡調査~

男性



女性



出典) 秋山弘子 長寿時代の科学と社会の構想『科学』岩波書店, 2010



「第2(老い)の義務教育」の提案

人生60年時代から100歳時代へ 「人生リセット」

–「福祉」は対症療法で限界。急げ「福祉」から「教育」に重点転換

(背景) =「人生100歳時代」は生き方が問われる

(成長期)体力成長、階段あり、先生あり、教科書あり、夢あり

(高齢期)体力低下、役割喪失、階段なし、手摺なし、先生なし、教科書なし、
時間あり、死あり

(ねらい)

現在の義務教育＝大人になるための教育＝「人生登山の教育」(9年)

第2の義務教育＝老いを生き切るための教育＝「人生下山の教育」

長い老いにこそ基礎教育が必要



100歳大学(第2の義務教育)

基礎科目

- ・ 健康づくり
- ・ 生きがいづくり
- ・ 福祉の現状
- ・ 地域の課題
- ・ 幸せづくり

選択科目

- ・ 男女別科目
- ・ 男の料理教室
- ・ 女の体操教室
- ・ 男女別認知症教室
など

第1の義務教育に準じ、基礎科目を設定

数多ある高齢者大学は基礎科目を飛ばし選択科目に特化



「100歳大学」の開設

- ①対象者 65歳の新規高齢者
- ②期 間 当面1年間毎週1回最低40コマ
- ③主 催 市町村が設置、民間に運営を委託
- ④場 所 徒歩や自転車で通学出来る中学校区単位の場所に
- ⑤教 室 地域公民館、コミュニティーセンター、空き店舗などを活用
(専用の建物は作らない)
- ⑥教授陣 各界現場の実践者、専門家など地域の人材を積極登用
- ⑦授業方法 講義と施設や現場での体験学習、学生間のワークショップ
- ⑧仕組み 運営委員会の設置 授業毎に単位を認定
単位取得者には市町村が卒業証書を授与